

# まちめぐり資源の解説

## 緑井ルート (総延長約4.6km)

### JR可部線 七軒茶屋駅

約0.5km

#### ① 宇那木神社 (うなきじんじや)

安芸の国守護武田氏の銀山城の北門を乱や災難から守るために、甲斐の国(今の山梨県)から神様を移して祭ったとされています。

また、宇那木神社の周辺では4基の古墳が確認されています。

境内の山林には「緑井」の発祥といわれている井戸のひとつがあり、弥都波能売神(みずはのめのかみ)が祭られています。



#### ② 「緑井」の発祥といわれる井戸のひとつ

日照りでもかれず、長雨でもあふれない清らかな水をたたえる井戸があったと伝えられています。緑豊かな土地をうるおす井戸のある地、ということで「緑井」と呼ばれるようになったそうです。



#### ③ 第一古川沿いの道

第一古川は、蛇行した水路による親水護岸、樹木や丸太橋などのある散策路が整備され多くの人々に親しまれています。



#### ④ 八木梅林橋

昔の八木梅林橋は欄干がない小さな橋でしたが、古川土地区画整理事業により新しく架け替えられました。

現在の八木梅林橋には、平成7年(1995年)に佐東地区内の小学校の児童が描いた12枚の陶板画が設置してあります。



#### ⑤ 昔の八木梅林

「八木梅林」の名は古くからあり、梅林の広さは1万坪もあったそうです。花見ときには殿様の野点(野外でたてる茶の湯)があったり、多くの人を訪ねたりしました。

また、日清戦争のころには薬用の梅としても知られていました。



#### ⑥ 第二古川沿いの道

せせらぎ公園のあたりから続く遊歩道は、四季折々の自然を楽しむことができます。特に梅や桜の時期にはたくさんの人を訪ねます。

また、年間を通して水鳥がおり、6月ごろにはホタルもみられることもあります。



### JR可部線 七軒茶屋駅

枝道コース・その他資源

- 山王神社 ○棕木神社 ○胡神社
- 温井八幡神社 ○浄行寺 ○胡子神社 など

#### 主な参考文献

佐東町史 / 佐東町誕生五十周年記念誌 / 想いでの佐東町 わたしたちのばいりん(市立梅林小学校) / しらうめ(市立八木小学校) 広島市の文化財 / 広島県神社誌 / 八木用水 / その他現地解説文 など



安佐南区  
まちめぐり憩いの空間ルート研究会

秋の第二古川

## まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」(平成13年度~平成20年度)を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント(空間)や、これらを結ぶルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。

このマップは、平成19年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、緑井、八木地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。



バスをご利用になる場合  
■県道八木線を通るバスは、広島駅・広島バスセンターから多数発着しています。  
※運行時刻、所要時間、経由地などは、バス会社に確認ください。

## あさみなみ散策マップ ~緑井ルート/上八木ルート~

発行: 広島市安佐南区役所 区政振興課 TEL:082-831-4926  
制作協力: まちめぐり憩いの空間ルート研究会  
発行年月: 平成20年(2008年)3月  
平成23年(2011年)10月改訂

# 緑井ルートと上八木ルートの周辺について

## ▼ 緑井地区について

権現山の東から南のふもと、太田川の支流古川と安川に囲まれた地域が緑井です。古くは出雲国に通じる雲石街道があり、現在ではJR可部線や国道54号、山陽自動車道広島ICによって、広域交通の要衝となっています。

935年ごろに書かれた「倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)」という本の中で、このころの辺りは「緑井」と呼ばれていたということが書かれています。これが現在の緑井一帯とすると、古代から同一名称で呼ばれ今日まで続く例としては全国的にも珍しいものとなっています。

言い伝えによると「緑井」の名は、山の中に、水がかれず、長雨でもあふれることのない不思議な泉があり、そこから「緑豊かな土地を潤す井のある地」という意味で「緑井」と呼ばれるようになったそうです。

## ▼ 上八木について

太田川の右岸、阿武山の北から東のふもとに細長く広がる地域が上八木です。江戸時代、18世紀の中ごろに作られた八木用水の取水口(現在の取水口は当時より上流に移動)があった場所です。渡場に関わる古い地名があるなど、太田川とともに歩んできた歴史を刻んでいます。

「倭名類聚抄(上記参照)」では、「養我(ようが)」と記され、それが「養義(ようぎ)」と誤記され、「やぎ」と呼ばれるようになったという説もあります。12世紀の中ごろの文書には「八木」と書かれるようになっていきます。

江戸の初め、17世紀の中ごろには、沼田郡となっています。この当時の沼田郡は、太田川の中・下流域で構成され、下流は江波まで含んでおり、太田川の持つ意味や役割の大きさを物語っています。



### 正しい歩き方

せっかく歩くなら、正しく歩いて「健康ウォーキング」にしませんか?

胸を張り、背筋を伸ばし、肩の力を抜いてリラックス

ウォーキングは…  
肥満・高血圧等の生活習慣病を予防・改善するだけでなく、脳の活性化により、認知症や老化の予防、筋力アップによる転倒予防にも効果的です!

元気じゃけんひろしま21  
~安佐南区では、「健康ウォーキング」を推進しています!~



あごを引き目線はまっすぐややくを見る

呼吸は自分のリズムで…

肘(ひじ)をやや曲げ腕を大きく振る

おなかを引き締める

膝(ひざ)を伸ばして大きく前へ

かかとから着地

つま先で蹴る

この印刷物は再生紙を使用しています

# まちめぐり資源の解説

## 上八木ルート (総延長約5.8km)

### JR可部線 上八木駅

約1.8km ●太田川の眺望ポイント

#### ① 定用水碑 (桑原卯之助の碑)

八木用水を開削した卯之助の子の巳之助が八木用水開削50年を記念して文化14年(1817年)に建てた石碑です。

碑文は頼杏坪の撰とされ、八木用水が完成するまでの地元の苦労や卯之助の功績などが、細かに記されています。



#### ② 細野神社

祭神は八幡三神で、八木の十歩一にあったものが焼失により現在地に遷座(せんざ)されました。かつては八木光広神社との間で雨乞い踊りを行ったとの伝えもあります。

明治4年(1871年)に可部の大蔵神社、八木下細野の伊勢社を合祀(ごうし)しています。境内には市内では珍しいタブの原木が多くあります。



#### ③ チャップリンの秘書の高野さん寄贈の警鐘台の跡

八木町出身で、渡米後チャップリンの秘書となった高野(こうの)さんが、チャップリンと共に来日しました。八木町の生家にも立ち寄り、その際寄付して立てられた警鐘台は、地区防災の役割を長い間担っていましたが、平成3年の台風19号で倒れ、今は基礎が残っているのみとなっています。



当時の警鐘台

#### ④ 渡し場があった場所

南からここへ至る道は藩都広島と山陰をつなぐ重要な街道(雲石街道)でした。

明治20年(1887年)に木製の太田川橋がかかるまでは、この渡し場で舟を利用して渡りました。昭和30年代の終わりごろまで地元の人は近くで便利な渡し船を利用したそうです。



昭和27年ごろの渡し船

#### ⑤ 八木用水の水位計

太田川発電所から八木用水への水が供給されています。この水位計により、八木用水の水量管理がされています。夏は水と共に冷たい空気が流れるスポットです。



#### ⑥ 八木用水周辺

八木用水は、江戸中期に祇園町の桑原卯之助によって苦難の末作られた農業用水路です。全長16kmにわたり、200年以上の間灌漑(かんがい)や生活用水として利用されていました。

近年、都市の発達と共にその果たす役割は少なくなってきましたが、今なお郷土の歩みを語り続けている貴重な歴史的遺産です。



### JR可部線 上八木駅

枝道コース・その他資源

- 鳴の八木用水取水口 ○阿武山登山コース など



温井八幡社の境内にあるイチヨウは「乳下りイチヨウ」と呼ばれ、樹高24mと大きいだけでなく、鍾乳石が垂れ下がるような形をした乳柱を多数下げた奇異な姿をしています。昭和54年には広島市指定の天然記念物に指定されています。



「七軒茶屋」の由来  
昔、陰陽を結ぶ唯一の道筋であった道沿いに七軒の民家があり、その中に旅人の休息所となっていた茶屋があったため七軒茶屋と呼ばれるようになったそうです。

② 緑井の発祥となった井戸のひとつ



**緑井ルート**  
総延長約4.6km

### 記号の説明

まちなめぐりルート  
0.5 区間の距離 単位: km

〈注意場所など〉	〈まちなめぐり資源〉
横断注意	公園・河川敷
信号交差点	緑道
歩行注意	河川・水路
階段	神社、寺院、碑 その他由来のあるもの
寄り道・枝道コース ショートカットコース	特徴ある風景・街並み
八木用水	眺望場所
バス停留所	社叢・樹木
コンビニエンスストア	ガソリンスタンド
スーパー・ショッピングセンター	郵便局
トイレ	交番

※注) ①資源・文化財名で示したものは裏面に解説があります。



古川にはいろんな鳥や生き物がいます。いつまでもきれいな川であってほしいね



### 八木用水

八木用水は明和5年(1768年)、桑原卯之助という人によって作られた全長約16kmに及ぶ農業用水路です。八木用水が作られる前、佐東町、安古市町、祇園町は農耕用水に恵まれず、少しの日照りで水が無くなるなど米を作るのに困っており、当時の広島藩も様々な策を試みましたがうまくいきませんでした。そこで、農民の苦勞を何とかできないかと考えた桑原卯之助が、土地の高い上流から水を取り入れるようにすれば水が勢いよく用水路に流れると考え、計画書を作り、工事を始めてからわずか25日という短さで完成させたといわれています。江戸時代の取水口は「十歩一」という場所でしたが、大正8年の大洪水により上流の「鳴」に移され、現在は太田川発電所から水の全量が供給され、一部区間を八木隧道(地下トンネル)で結んでいます。

八木用水には歴史があるんだね

**上八木ルート**  
総延長約5.8km



チャップリンの秘書の高野さん寄贈の警鐘台の跡  
「寄附者 在米 高野虎市 昭和七年四月十二日」と刻まれています。

